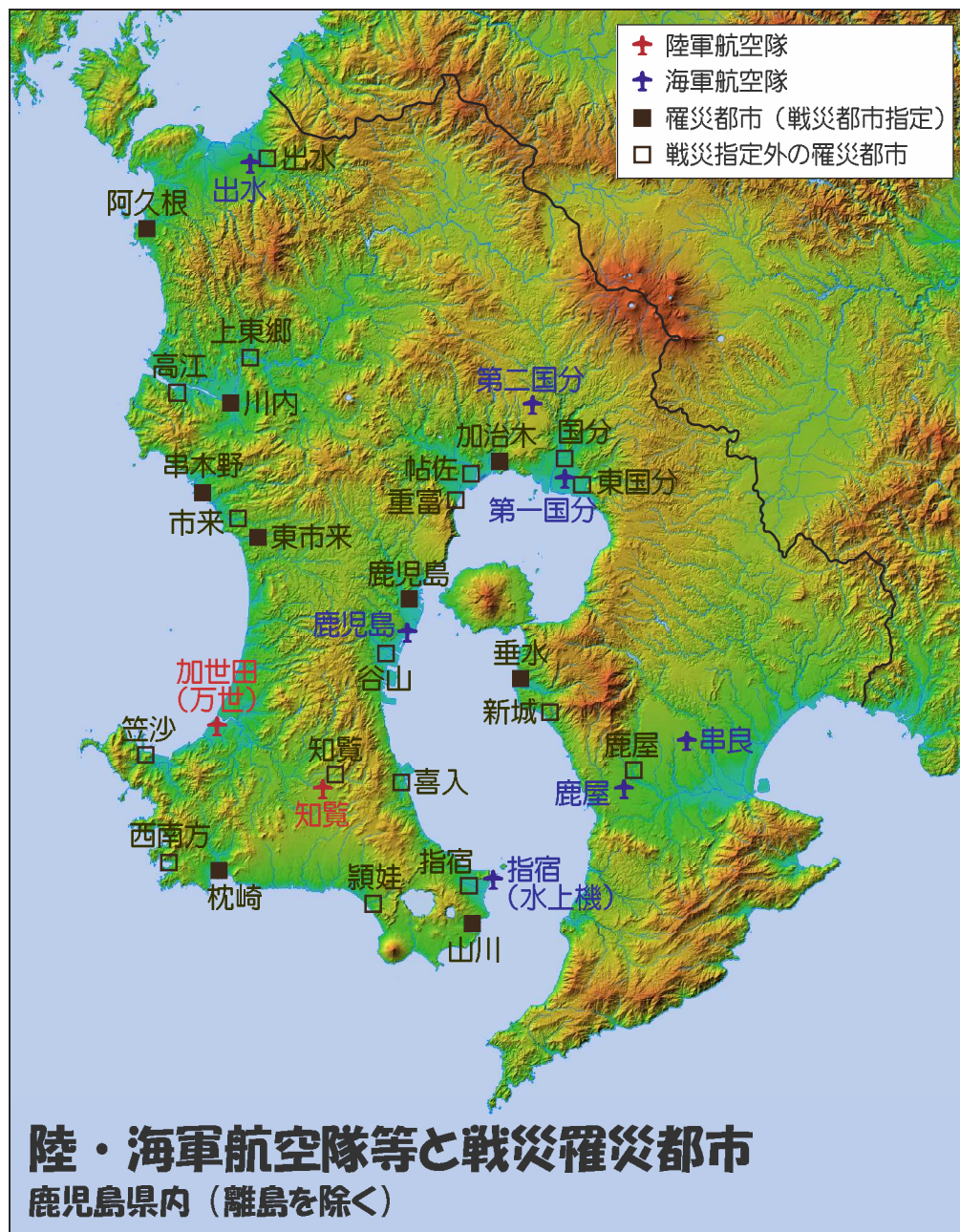


鹿児島・・・「特攻」出撃地への激しい空襲罹災から再生

鹿児島県内には、本土における最前線基地として、多くの陸・海軍航空隊基地がありました。戦争末期には各基地から「特攻機」が飛びたっており、これらの基地を対象とした激しい攻撃も加えられました。鹿児島市への空襲は昭和20年（1945年）年3月18日から8月6日まで8回にわたり、市街地の約93%を焼失、文字どおり壊滅的な打撃を受けました。

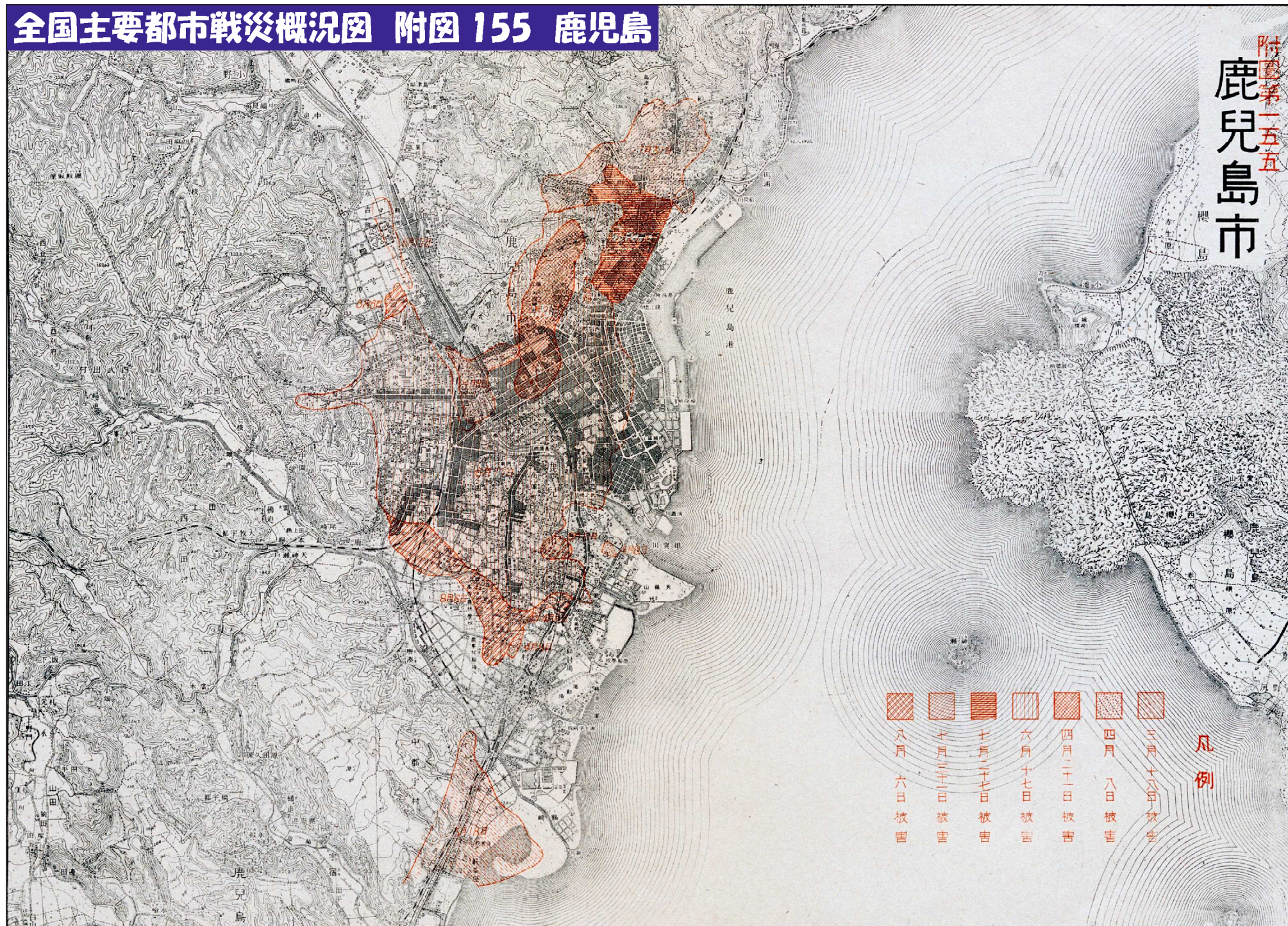
また、鹿児島市への直接攻撃を行わずに鹿児島上空を北上、南下する米軍機も多く、とくに沖縄戦終結以後は定期便のようにB29の編隊が鹿児島上空を通過、「米軍機を見ない日はない毎日」であったといえます。

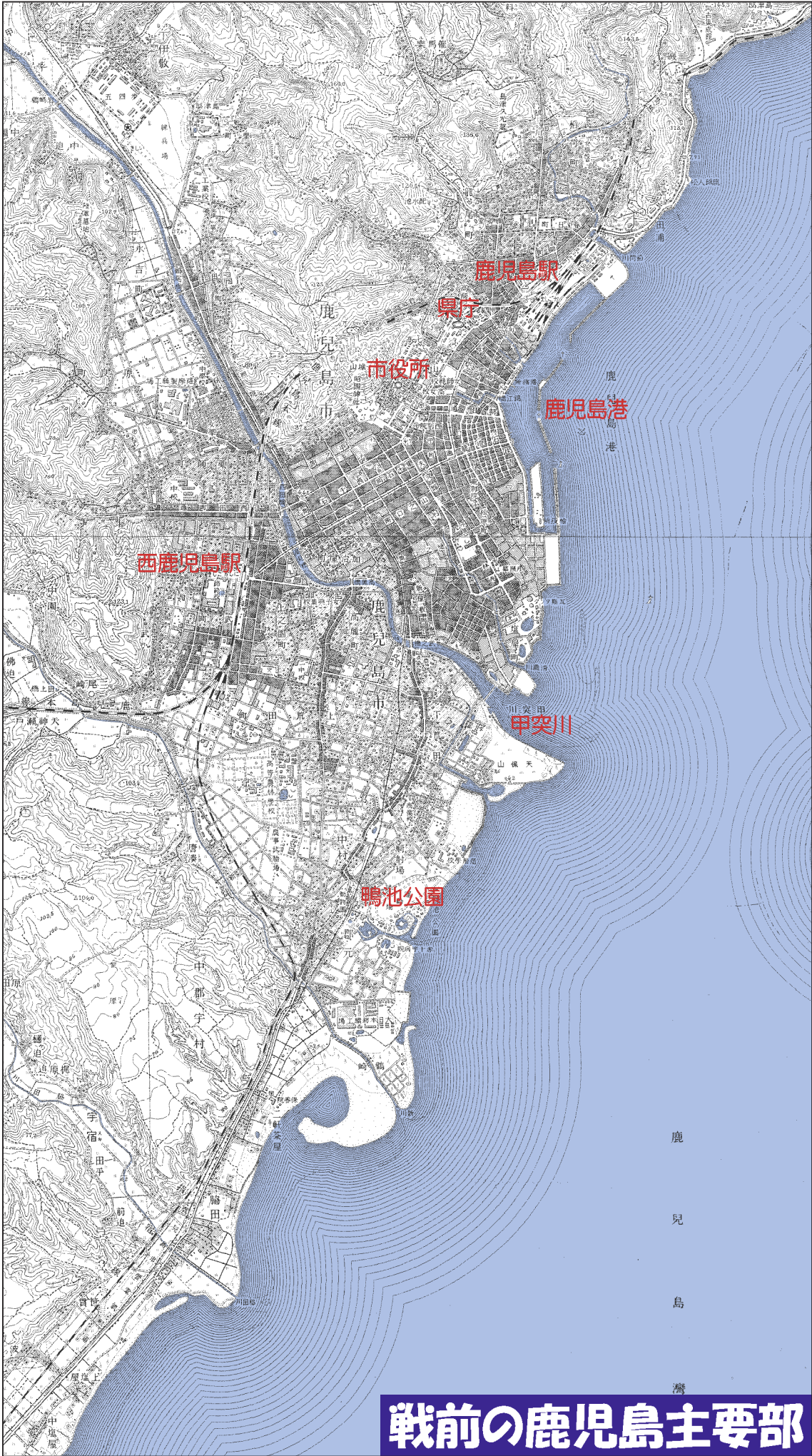
もともとの鹿児島市街地は錦江湾に流入する河川の河口に堆積した中洲の上に形成されていましたが、戦後の復興事業により大規模な埋め立てを行い、住宅用地、工業用地として再生するとともに、西鹿児島駅（現：鹿児島中央駅）を将来の市の玄関口とする区画整理などにより、市街地の発展が図られました。



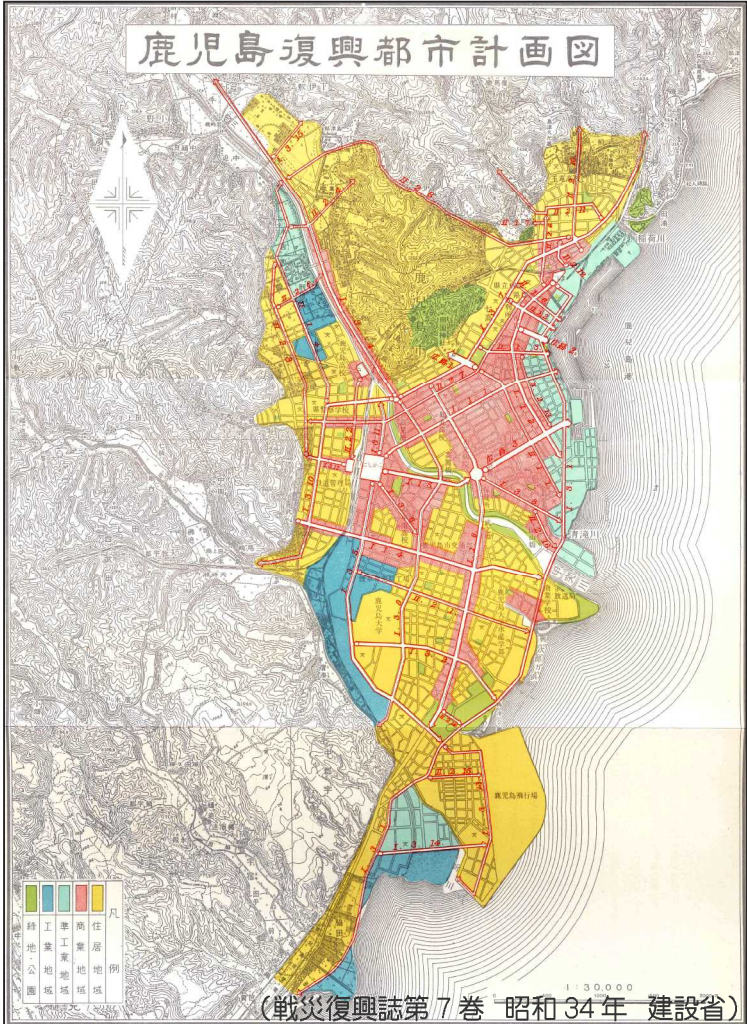
焼失した鹿児島市内（「戦災復興誌第7巻」昭和34年 建設省）

全国主要都市戦災概況図 附図155 鹿児島





2万5千分1地形図「鹿児島北部（昭和7年修正）、鹿児島南部（昭和7年修正）」を拡大（部分）。水表面を水色に着色



電子地形図25000を拡大

2万5千分1地形図

かごしまなんぶ
鹿児島南部

NH-52-7-7-4
(鹿児島7号-4)

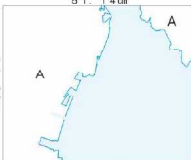
索引図

伊集院	鹿児島北部	桜島北部
香山	鹿児島南部	桜島南部
神原	瀬々串	垂水

地域図



行政区画



鹿児島県
A. 鹿児島市

地形図の基準

- 経緯度の基準は世界測地系
- 高さの基準は東京湾の平均海面
- 等高線及び等深線の間隔は10メートル
- 投影はユニバーサル横メルカトル図法、座標帯は第52帯、中央子午線は東経129°
- 図式は平成25年2万5千分1地形図図式
- 磁気偏角は西偏約0°20'
- 図郭に付したものは隣接図の図郭の位置、は日本測地系による地形図の図郭の位置
- 図郭に付した数値は黒色の短線の経緯度(茶色の短線は経緯度1分ごとの目盛)

平成26年 6月 調製
著作権所有兼発行者
国土地理院
この地形図の複製等については
測量法の定めによる
平成26年10月 1日発行 1刷

